

中国高校生訪問団が本校を訪問しました

令和5年10月19日（木）に、外務省の推進する交流プログラム「JENESYS」の一環で訪日中の中国高校生訪日団が、本校を訪問しました。

来校したのは、西安交通大学附属中学、陝西省西安中学に在籍する高校2年生30名。歓迎セレモニー、ランチ交流会、交流授業（英語、調理実習）、日本文化体験（箏曲、華道）、送別セレモニー等で交流を図りました。

生徒の感想と共に、交流の様子をお知らせします。

歓迎セレモニー



- ◆歓迎セレモニーでは日本の文化に触れてもらい楽しさなどを伝えられた。中国と日本お互いの文化や生活の様子を交換できて貴重な経験で、新鮮な一日だった。
- ◆書道パフォーマンスでは、完成した際の中国の高校生の歓声が今までで一番大きく、喜んでくれて本当に嬉しくなった。

ランチ交流会



- ◆ランチ交流会において初対面で非常に緊張したが、普段なかなか交流することのできない中国の高校生と、互いに自国の文化、伝統、流行について話せてすごく楽しかった。貴重な体験でした
- ◆中国の方との交流は初めてでとても新鮮だった。英語を通して他国の人と関われることに感動し、英語の魅力を再認識した。今以上に英語の勉強に力をいれていきたい。

交流授業（英語・調理実習）



- ◆今回の交流を私は忘れない。将来、国外の人々に関わる仕事に就きたいという思いをより強くした。国外に興味をもつきっかけとして、今後もこのような交流が続いてほしい。
- ◆中国の方々は反応もよく、私達のプレゼンにも熱心に聞いてくれた。私達がどれだけ待ち望んできた十分伝わったと思う。仲良くなりたいという彼らの思いも伝わってきて嬉しくなった。

日本文化交流（箏曲・華道）



- ◆これまでは、国際交流に全く興味がなかったが、今回の訪問で興味が湧き、英語を話せるようになって、海外に渡航し現地の人と様々な交流をしてみたいと強く思った。将来の夢の幅も広がった。
- ◆初めて同年代の外国人と関わる体験で、普段の生活では味わえない多くの刺激を得た。苦手な英語を使って身振り手振りで何とか意思の疎通ができた。来年3月の台湾研修旅行が不安で仕方なかったが、自信になり楽しみになった。

送別セレモニー



R5. 10. 21 山形新聞にも掲載されました



スマートフォンを使い、会話を楽しんだ中国の高校生（右側）と山形西高生
山形市・山形西高

外務省の交流プログラムで、蘭陽橋を造った自己紹介や、来日している中国の高校生がプレゼンテーションが始まり、10月10日、山形市の山形西高（片）館を築き、両校の交流も行って、蘭陽橋の建設を共同して、両校をランチや授業を共にして、両校を深め、中国の生徒は日本文化を体験した。

中国の高校から計40人が、きれいな会場に胸を打たれた、一年生ももてなしてくれ、そのなつれいして話し、二階

ランチに授業 会話弾む

山形西高 中国の高校生が訪問

来校した。山形西高は、生主にランチを準備し、山形西高約300人が歓迎セレモニー2年の任明さん（17）は、「日本を訪問して、日本のアニメや文化の知識で盛り上げられた。授業も楽しめた。パフォーマンスを披露した。英語の交流も楽しめた。ランチは双方の生徒が、なにも企画された。一行は15日に来日し、山形西高を訪問した。スマートフォンで、21日に撮影された。（写真提供）